

《東京家政大学は板橋区にあります。キャンパスにはビオトープがあり、様々な植物の生育の場となっています。そのビオトープを間借りして白藤を植えました。たくましく成長中です。》

《草取りは大変。有機栽培10年目の生産者が「ありとあらゆる草が生える。(自分の)父母が毎日草取りをしているが、近所に『老人虐待だ』と言われた」と一言。環境を守るためとはいえ、切ないです。》



有限会社エコ・ライス新潟  
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL:0258-66-0070 FAX:0258-66-0447

# クイーン倶楽部だより 7月号



## 手取り除草に挑戦! + 手押し除草機

白藤プロジェクト第二期生のリーダー、岡本香さん、森本明子さん(3年生)が米作りで一番つらい草取りを体験しました。

昔ながらの手押し除草機で除草。しかし、さすが21世紀。新調した除草機はアルミ製で軽量化がすすみ、女性でもラクラク!古いように見えて「ハイテク?」な除草機を一生懸命押しました。

すると田んぼで羽化したトンボが飛び交い、蛙がスイスイ泳ぎ回る!

今年愛情いっぱい白藤が育つでしょう!



阿部さんの無農薬米の田んぼでマガモを追いかける二人。逃げ足が速くてなかなかつかまりません。



## 白藤 in 家政大板橋キャンパス

白藤プロジェクトチームにより、家政大ビオトープの一角にプランターに白藤を植え、育てています。

写真:第一期生リーダー松本恭子さん



除草のあとは山でブルーベリー摘み。

## Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

## 第19回 一米

1メートルと読みます。メートルというのは1875年(明治8年)に国際的な「メートル条約」ができてからのものです。わが国は昭和34年の1月1日から全国一斉にメートル法へ移行しました。早速新聞で「本日より一寸の虫にも五分の魂」は「0.3cmの虫にも0.15cmの魂」に変換と洒落た記事で囃し立てました。そもそも1メートルとは、地球の子午線の四万分の一の長さというのが起源らしく、西洋人の合理的主義でできたもので無粋の上ありません。

わが国では、メートルの概念が明治直後から輸入され舶来好きの政府は採用したがりました。まず、横文字から縦文字に直す必要があるので、漢字決定せねばなりません。そこで登場願ったものが、国民のアイドル「米」です。苦しい時の米頼みで、米は苦情一ついわず、引き受けました。

出来上がったものが、1米、1穂、1粒でした。上よりメートル、センチメートル、ミリメートルです。漢字は便利で、長い文字を一文字に短縮できます。厘は十分の一を、毛は厘の十分の一を示します。中国では米・公分(センチ)・公厘(ミリ)の順ですから、米は借りてきて、穂は日本でこしらえたものようです。日本人の米へのこだわりが窺えます。

この前の日本橋の白藤のお披露目の公演中に気付いたのですが、何故、メートルを米に当てたのか、白藤を揚げながらはたと気づきました。白藤は古代米(穂に芒がある種)で背丈があり、ほぼ1メートルなので、日本人はセンチ、ミリまで米にこだわったのです。

今回は、日常の基本単位にまたまた米のお出ましをいただいたという、お米大好き民族の逸話でした。

